

＜ポイント版＞ ぎふ経済レポート（令和5年2月分）

【製造業】

○製造業は、12月の鉱工業生産指数は前月比▲1.5%となった。ヒアリングでは、原材料やエネルギー価格の高騰分の価格転嫁が認められるようになり、利益率が改善しつつあるとの声が聞かれた一方、価格転嫁が認められるまでには時間がかかるケースが多いとの声や、更には中国向け製品の輸出が軟調に推移しており、売上が減少している上、回復までに時間がかかると懸念しているとの声も聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、12月の鉱工業生産指数は、食料品、パルプ・紙、繊維工業、窯業・土石、家具及び木材・木製品で低下した。ヒアリングでは、価格転嫁は実施しているが、それ以上に仕入価格が上昇しているため、利益率は減少しているとの声や、4月より更に仕入価格が上昇するため、再度の値上げを実施するとの声、また、価格交渉で折り合わないものは採算が合わなくなるため、生産縮小や撤退も視野に入れているとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、1月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲9.7%となった。ヒアリングでは、人手不足を解消するために、自動化や効率化を図る動きがあるとの声や、新商品開発のために、県の補助金を活用し設備投資を行ったとの声が聞かれた一方で、工場の建設や機械設備導入に際し、部品不足や物価高の影響により、計画よりも完成が遅延し、また金額が予算よりも増額する見込みであるとの声も聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、1月の販売額は、ホームセンター及び家電大型専門店で前年同月比減少し、全体で同▲0.1%となった。ヒアリングでは、原材料やエネルギー価格上昇により販売価格への転嫁を順次実施しているとの声が聞かれた一方で、商品の値上げが進むことで消費者の購買意欲の減退がよりいっそう加速するのではないかと懸念しているとの声も聞かれた。

【観光】

○観光は、1月の観光客数、宿泊者数はコロナ前の令和元年同月比▲20.2%、▲32.3%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、インバウンド客が少しずつ見られるようになってきており、春先の予約が好調との声が聞かれた一方で、原材料やエネルギーコストが高騰しており、経営を圧迫しているとの声や、旅行客の増加により人材不足に陥り、今春からの入社人数を増やしたとの声も聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、1月の制度融資実績は、件数、金額とも21ヶ月連続で前年同月比減少した。金融機関からは、価格転嫁は進んでいるものの、それ以上に原材料やエネルギー価格が高騰しており、利益を圧迫しているとの声や、県制度融資である「伴走支援型借換保証」の相談・申込件数が増加しているとの声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、1月の有効求人倍率は1.67倍と17ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、受注が好調な一方、人手が不足し対応に苦慮しているとの声や、人材確保のため、今春は大幅な賃上げを検討しているとの声、更には、若手に世代交代を図りたいが、人材が集まらず、今後の技術継承が課題となっているとの声も聞かれた。

【景気動向】

12月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲0.3ポイント、1月の中小企業の景況感と同▲1.3ポイントとなった。